

## 学級経営 11 の武器 クイズ

以下の 10 の質問に、それぞれ 2~3 文で簡潔に答えてください。

1. 応用行動分析学に基づくと、子どもの行動を理解する上で最も重要な二つの要素は何ですか。また、それらを分析することがなぜ重要なのでしょうか。
2. 本文では、罰則や叱責といった「懲罰」にはどのような副作用があると述べられていますか。2つ以上挙げてください。
3. 望ましい行動を増やすために子どもを「ほめる」際には、どのような点に注意すべきですか。特にタイミングと具体性について説明してください。
4. 叱責が、問題行動を減らす上で効果的でなかったり、かえって行動を増やしてしまったりすることがあるのはなぜですか。
5. 学級目標を立てる際、単に「思いやりのあるクラス」のような抽象的な目標ではなく、「行動目標」に具体化することがなぜ重要なのでしょうか。
6. 廊下を走る子どもへの指導法として、「廊下は歩いたほうがトクをする」というルール設定が紹介されています。このアプローチの背後にある考え方を説明してください。
7. クラス全体への集団指導だけでは対応が難しい「困難なケース」に対して、個別に対応する際の基本的なアプローチはどのようなものですか。

---

### 解答

1. 子どもの行動を理解する上で最も重要なのは、行動の「前」に何が起きるかと、行動の「後」に何が起きるかの二つの要素です。これらを分析することで、行動がどのようなきっかけで起こり、何によって維持・強化されているのかという因果関係を客観的に把握し、効果的な指導につなげることができます。
2. 「懲罰」の副作用として、教師や教室を避けるようになること、罰を与える教師の言動を子どもが模倣すること、罰への恐怖から嘘をつくなどの新たな問題行動が生まれることなどが挙げられます。これらの副作用は、長期的に見ると学級経営に悪影響を及ぼす可能性があります。
3. 望ましい行動を増やすためには、その行動が見られた「直後」にほめることが極めて重要です。また、漠然とほめるのではなく、「何が」「どのように」良かったのかを具体的に言葉にすることで、子どもは次に何をすればよいかを明確に理解できます。
4. 叱責は教師からの「注目」の一形態であり、子どもにとってはそれが報酬となって、かえって問題行動を増やしてしまう可能性があるためです。子どもにとって教師からの注目は、たとえ否定的なものであっても、無視されるよりはましな報酬として機能することができます。
5. 抽象的な目標は、評価が難しく、子どもたちが具体的に何をすればよいか分かりにく

くいためです。「行動目標」に具体化することで、目標達成に向けた行動が明確になり、教師も子どもも目標の達成度を客観的に評価し、日々の振り返りを行うことができます。

6. このアプローチは、「走ってはいけない」と行動を禁止するのではなく、「歩く」という望ましい行動をすれば良いこと(得)がある、という仕組みを作る考え方です。行動の結果としてメリットが得られるようにすることで、子どもたちが自発的に望ましい行動を選択するように促すことを目的としています。
  7. まず、対応すべき行動を一つに絞り込み(ターゲット行動)、その行動の「前」(先行)と「後」(後続)を分析して、行動が起こる原因を探ります。その上で、その子に合った「別ルート」のルールや「約束」を設定するなど、一人ひとりの状況に合わせた個別のアプローチを計画・実行します。
- 

### 小論文問題

以下の5つのテーマについて、本文の内容を踏まえて自身の考えを論じてください。(解答は不要です)

1. 本文で紹介されている「行動の原則」の中から3つを選び、それらが実際の学級経営(例:給食指導、休み時間のトラブル防止、あいさつ運動など)においてどのように応用できるかを、具体的な事例を交えて論じなさい。
2. 「懲罰に頼らない学級経営」というテーマについて、本文の内容を踏まえて論じなさい。なぜ懲罰は避けるべきなのか、その代替案としてどのような指導法が提案されているのかを体系的に説明しなさい。
3. 集団指導と個別対応の関係性について、あなたの考えを述べなさい。本文では、両者をどのように使い分けるべきだと示唆されていますか。また、集団指導がうまくいかない場合に、個別対応へと移行する際のプロセスを説明しなさい。
4. 本文は「科学的・実用的」なアプローチを重視しています。応用行動分析学の知見を学級経営に活かすことの利点と、教師がそれを実践する上での課題は何か、本文全体から読み取れることを基に論じなさい。
5. 「学級目標」の設定から評価、振り返りまでの一連のプロセスが、クラスの一体感や子どもの自己肯定感にどのような影響を与えると考えられるか、本文の記述を基に論じなさい。